呉工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	歴史総合Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 選択必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気情報工学科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「新選歴史総合」（東京書籍）		
担当教員	木原 滋哉		

到達目標

・１９～２０世紀の世界の情勢について理解する
・第１次大戦から第２次大戦の過程を把握する
・２０世紀人々の生活・文化の特徴を把握する
・民族問題について把握する
・冷戦構造の特徴を把握する
・植民地独立の過程を把握する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	2度の世界大戦と国民生活の変容について詳細に把握することができる	2度の世界大戦と国民生活の変容について把握することができる	2度の世界大戦と国民生活の変容について把握することができない
評価項目2	第１次大戦から第２次大戦の時代への変遷を詳細に理解することができる	第１次大戦から第２次大戦の時代への変遷を理解することができる	第１次大戦から第２次大戦の時代への変遷を理解することができない
評価項目3	冷戦やグローバル化などの世界情勢の推移を詳細に把握することができる	冷戦やグローバル化などの世界情勢の推移を把握することができる	冷戦やグローバル化などの世界情勢の推移を把握することができない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)

教育方法等

概要	１９世紀から２０世紀の歴史を政治・社会・文化の面に力点をおきながら学習する。また、現代にも通じる問題については教科書にとらわれることなく、より詳しく論じる。
授業の進め方・方法	講義を中心とするが、過去の時点で別のどのような選択肢があったのかなど、学生同士で議論する機会を設ける。
注意点	日頃から本や新聞などを読んで、過去のできごとと現在がどのようにつながっているか、注目してほしい。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	大衆社会と第一次世界大戦	第一次世界大戦の原因について説明できる
		2週	第一次世界大戦後の国際協調体制	第一次世界大戦後の国際協調体制について説明できる
		3週	反植民地主義の高揚と民主主義	反植民地主義の動向について説明できる
		4週	世界恐慌と国際協調体制の崩壊	世界恐慌後に国際協調知性がどのように崩壊したのか説明できる
		5週	日中戦争と第二次世界大戦	日中戦争や第二次世界大戦の原因について説明できる
		6週	日本の敗戦と連合国の占領政策	アジア太平洋戦争と連合国の占領政策について説明できる
		7週	中間試験	
		8週	答案返却・解答説明	
	4thQ	9週	冷戦と脱植民地化	冷戦のもとでの脱植民地の動向について説明できる
		10週	冷戦下の日本とアジア	冷戦のもとで日本やアジア諸国がどうなったか説明できる
		11週	ベトナム戦争と冷戦の変容	ベトナム戦争と冷戦の変容について説明できる
		12週	アジアの発展と日本	アジアの経済発展について説明できる
		13週	冷戦の終焉と地域紛争の拡散	冷戦の終焉と国際関係の変化について理解する
		14週	民主化の進展とグローバル化	グローバル化と民主化の進展について説明できる
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後10,後11,後12,後13,後14

				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後12,後13,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0